

## 2 せせらぎスクール指導者養成講座初級編

「せせらぎスクール」の指導者を養成するため、初級者向けの講座を2回（初級編1コース及び初級編2コース）開催しました。

### (1) 初級編1コース 会津会場

ア 日 時：令和元年5月25日（土）10：00～15：00

イ 場 所：会津若松市文化センター（実習：湯川）

ウ 講 師：福島大学共生システム理工学類 <sup>つづみ</sup> 塘 <sup>ただあき</sup> 忠顕 教授

エ 人 数：受講者：9名（水生生物に興味のある方、新たに指導者を目指す方）

講師・実習サポート：3名／事務局：3名

オ 講座の内容：(ア)～(エ)のとおり。

(ア) 講義（水生生物調査の方法、指標生物の説明）10：05～11：30



講義「水生生物調査の方法、指標生物の説明」（塘教授）

(イ) 野外実習 12：45～14：00



湯川で水生生物調査を実施



水生生物の種類を確認する受講生

(ウ) 採集した水生生物の説明、水質評価の方法、水生生物調査のまとめ（塘教授）

14:30～14:55

受講者が採集した水生生物を塘教授が集計し、塘教授に水生生物と水質階級について説明していただきました。



湯川の水質階級及び水生生物の説明（塘教授）

2019.5.25 湯川で見つかった底生動物

カゲロウ目 キイロヒラタカゲロウ ユミモンヒラタカゲロウ コカゲロウ属(広義) モンカゲロウ* シロタニガワカゲロウ オオマダラカゲロウ ミツトゲマダラカゲロウ ヨシノマダラカゲロウ エラブタマダラカゲロウ オオクママダラカゲロウ チェルノバマダラカゲロウ アカマダラカゲロウ ヒメシロカゲロウ属	トンボ目 コオニヤンマ コヤマトンボ ミルンヤンマ ダビドサナエ属 オナガサナエ ハグロトンボ*	トビケラ目 ヒゲナガカワトビケラ* ムナグロナガレトビケラ ホタルトビケラ属 センカイトビケラ属 トウヨウグマガトビケラ コガタシマトビケラ属
その他 ナミウズムシ シマイシビル* ミズムシ アメリカザリガニ フロリダマミズヨコエビ カワニナ ミスダニ類	カワゲラ目 フタツメカワゲラ  カメムシ目 アメンボ ヒメアメンボ ナベブタムシ*  ヘビトンボ目 クロスジヘビトンボ ヘビトンボ	コウチュウ目 コオナガミズマシ(幼虫) ヒラタドROMシ  ハエ目 ユスリカ科 ガガンボ属 ウスバガガンボ属  * 多い

湯川で採集した水生生物まとめ（塘教授）

(E) まとめの講義概要 (塘教授)

- 水生生物がそこにいることに気付いてほしい。そこに生息していない場合、何らかの環境破壊が起こる前は、どういう状態であったのかを知っていることが大切である。水生生物調査の指導者、そして地域の方がどこにどういう水生生物が生息しているか知る必要がある。
- 人間が自然災害から身を守るため、豊かな生活をするためにも自然破壊がどうしても起こりうる。水生生物を守るだけでなく、どうやって共生していくかを考えることが大事である。
- 水生生物調査により河川の水質を知る。知ったら周辺の環境にも目を向けてほしい。水生生物は河川に生息しているが、成長したら蛹になり成虫となって陸上で生活する。成虫となったら河川中に卵を産んで水生生物が成長する。河川とその周りの環境にも視野を広げ、環境の保全について考えてほしい。(特に指導者は、水生生物調査をする際、子どもたちにも伝えてほしい)
- 河川の攪乱も水生生物にとって大事な場合がある。環境の変化も大切でずっと河川の環境が変わらないから良いというわけでもない。
- 指導者が実際に水生生物調査を体験することが大事で、経験がある人の言葉には説得力が生まれる。環境教育をする上でとても重要なことである。ぜひ今回学んだことを地域の方に持ち帰ってフィードバックしてほしい。

カ 参加者の感想 (アンケート結果から)

[アンケートの質問]

Q. 講座を受講して、内容は期待どおりでしたか。また、学校や地域に持ち帰って活用きそうなものでしたか?

A. 受講生の感想

◎学んだこと◎

- ・水生生物に関する知識が豊富な方も多く、初めてでもサポート体制がしっかりしているので、非常に勉強になる。
- ・取りかかる基本を学べたことは有意義でした。安全管理も役に立った。
- ・期待どおり、丁寧に指導していただいた。

◎今後について◎

- ・今後、個人また会社のイベントなどでの利用を考えている。6月と7月の講座も参加したい。
- ・子ども達に水生生物の同定をさせるのに、自分自身がもっと学ばなければと思う。